

# 弘前市アクションプラン

## 第三者評価報告書

平成23年10月

弘前市市民評価会議

平成23年10月28日

弘前市長 葛西憲之 様

弘前市市民評価会議

委員長 辻 琢也

弘前市アクションプラン第三者評価について（報告）

本評価会議では、弘前市アクションプランに関する第三者評価を実施してまいりました。この評価結果について、本評価会議を代表して報告します。

## 目次

1. 目的	1
2. 評価対象	1
3. 評価方法	2
4. スケジュール	4
5. 評価結果	
約束 1	5
約束 2 - (1)	8
約束 2 - (2)	11
約束 2 - (3)	14
約束 3	17
約束 4 - (1)	20
約束 4 - (2)	23
約束 5	26
約束 6	29
約束 7	32
まとめ	36

弘前市市民評価会議設置要綱

弘前市市民評価会議委員名簿

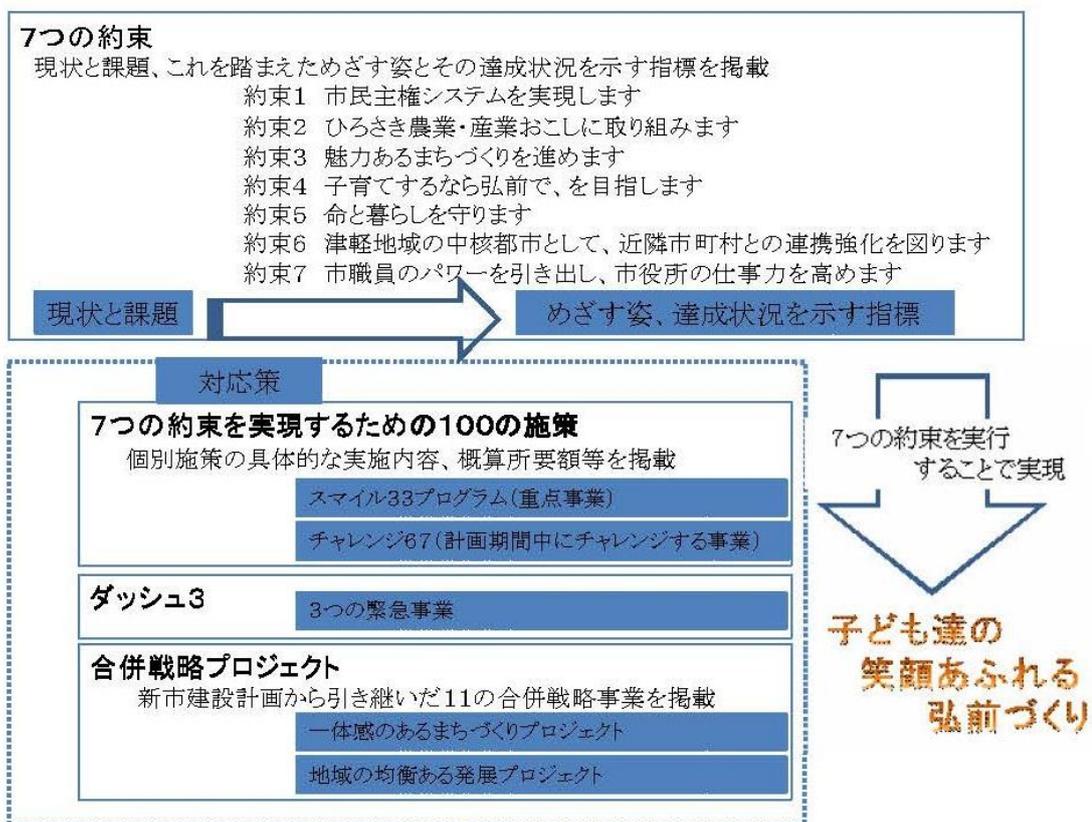
## 1. 目的

弘前市では、平成22年4月の市長交代を受けて、同年10月に弘前市総合計画の  
実行計画として「弘前市アクションプラン2010（以下「アクションプラン」とい  
う。）」を策定・公表した。このアクションプランの平成22年度の達成状況を評価す  
るために、平成23年4月から市民評価アンケート及び自己評価を実施してきた。

今回、「弘前市市民評価会議（以下「市民評価会議」という。）」は、自己評価結果  
等を参考としながら第三者評価を実施し、その評価結果をアクションプランの改訂に  
反映させるための意見や提言等をまとめたものである。

## 2. 評価対象

### (1) 「弘前市アクションプラン2010」の構成



### (2) 今回の評価の特殊事情

- ① 評価対象期間（最終日が平成23年3月末）が、アクションプランの策定・公表された平成22年10月から約6ヶ月間しか経過していないこと。
- ② 平成22年4月の市長交代時に本格予算が編成済みであったため、評価対象期間の新たな取り組みは補正予算にて措置したもののみであること。
- ③ 今回の評価がPDC Aサイクルにおける初めての「チェック」と「アクト」であり、サイクルの確立が重要であること。

### (3) 評価対象

以上の点を考慮して、市民評価会議における今回の評価においては、基本的に個別施策（事務事業）の評価を対象とせず、政策部分である「7つの約束」を中心とした評価・提言を実施することとする。

## 3. 評価方法

### (1) アクションプランの進行管理

アクションプラン全体の進行管理は、次のとおり実施する。

#### ① 市民評価アンケートの実施

市民6,000世帯を対象として、市政に対する市民の意見を把握するアンケート調査を郵送形式で実施して、アクションプランの評価や今後の施策展開等に活用する。

#### ② 自己評価の実施

アクションプランの達成状況について、市役所内において、自己評価を実施する。

#### ③ 第三者評価の実施

市民評価会議において、市民評価アンケート、自己評価結果等を参考としながら、市民視点による第三者評価を実施する。

#### ④ 評価結果公表とアクションプラン改訂

市民評価アンケート、自己評価及び第三者評価の結果については、市ホームページへの掲載・閲覧コーナーへの配置などによって、市民に広く周知する。また、これらの結果をもとに、翌年度予算編成と並行してアクションプランの改訂版を策定・公表する。

### (2) 市民評価会議における評価

評価会議においては、以下の項目について、文書確認、担当部局ヒアリング、これらを踏まえた委員間の意見交換等によって審議結果をとりまとめる。

#### ① 「7つの約束」（政策）の目標のあり方

(A) 7つの約束（政策）に掲げている「めざす姿の達成状況を示す指標」の妥当性について、検討・審議する。

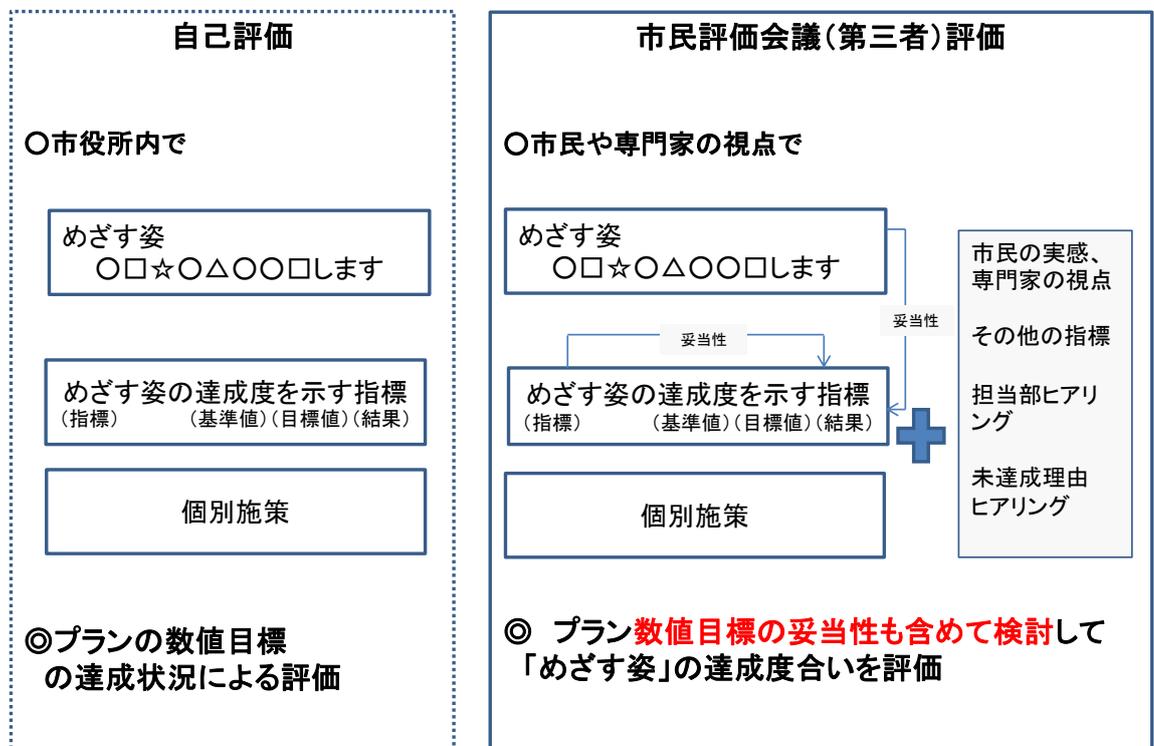
(B) 「指標毎の基準値、目標値、22現状値（結果）」の妥当性について、検討・審議する。

② 「7つの約束」(政策)の達成状況の評価

自己評価結果及び関係資料に基づき、審議・検討する。

なお、市民評価会議の評価は、市民の実感や専門家の視点に基づいて、アクションプランに掲げた数値目標の妥当性も含めて検討をして、その上で「めざす姿」の達成度合いを評価するものである。一方、自己評価は、市役所内において、アクションプランに掲げた数値目標(これが妥当であることを前提として)の達成状況による評価を行うものである。

(参考) 自己評価と市民評価会議(第三者)評価の違い



③ その他(個別施策、市民評価アンケートなど)

アクションプランやその評価に関するこれらの事項について、検討・審議する。

#### 4. スケジュール

時 期	市民評価会議	内 容	(自己評価等)
4月～			1. 市民評価アンケート 2. 自己評価 (1)部局評価 (2)全庁評価
7月8日	第1回市民評価会議	・委員長選出 ・会議の運営方法に関する協議 ・評価方法に関する協議	
			(1)部局評価 (前半部分)
8月5日	第2回市民評価会議	「7つの約束」前半部分に関する評価 (約束1,2-(1),2-(3),3)	
			(1)部局評価 (後半部分)
8月29日	第3回市民評価会議	・「7つの約束」後半部分に関する評価 (約束4-(1),4-(2),5,6,7) ・報告書イメージ	
			(2)全庁評価
10月5日			自己評価の確定、公表
10月6日	第4回市民評価会議 ↓ 内容調整 とりまとめ	評価結果のとりまとめ (積み残し分、自己評価変更点の協議)	
10月28日	市民評価会議	第三者評価報告書 策定	
10月31日	市民評価会議	第三者評価報告書 公表	

※H24年2月 評価結果等を踏まえて改訂した「弘前市アクションプラン2012」の策定・公表

## 5. 評価結果

記号の意味：◎全体意見、○付帯意見

### 約束1 市民主権システムを実現します

#### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

##### (1) めざす姿とその達成状況を示す指標との関係

- ◎ 「めざす姿」の達成状況の評価に当たって、市民評価アンケート結果を指標とすることは、適当であり、また必要なことでもある。しかし、社会情勢の影響を受けたり誤差が生じたりと、必ずしも万能ではないことに留意して、基礎的客観的なデータ指標や市役所の取り組みに関する指標等をあわせて活用することが必要である。
- ◎ 「市民が主体のまちづくりを進められている」ことの基本として、「投票率」が挙げられる。毎年度評価する本プランの数値目標にはなじまないが、評価に当たっての「参考指標」として、推移を記載するべきである。
- ◎ 広報に関する指標、広聴に関する指標がそれぞれ複数あるので、一つにまとめることを検討すべきである。
- アイディアポスト投書件数の目標は、他の指標に比べて重要性が低い。

##### (2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値 (結果)

- ◎ 過去の傾向を基礎に目標値を設定している事例(※)があるが、目標とすべき理想値を明示した上で、計画期間中に実現する目標値を設定するという考え方が適当である。  
(※) 例：過去3年間平均年5%増加しているものを、年7%の増加にする。
- ◎ プラン最終年度(平成25年度)の目標値を既に達成したのものについては、新たに高い目標値の設定や、よりの確な指標への変更を行うべきである。
- ◎ 指標⑤「公募枠」の数値目標は、積極的な他自治体と比べて低い可能性が高い。  
目標値の設定に当たっては、先進自治体の状況を把握して、よりの確な数値設定を検討すべきである。

## 2. 達成状況の評価について

◎ めざす姿の「市民が主体のまちづくりを進められている」ことについては、短期間で大きく状況を変えることは難しいが、『既に改善の傾向が見られており、今の努力の継続を求めたい』。

自己評価では、「おおむね順調に推移」と評価されているが、市民評価会議としては、現在の取り組みに市民が期待感を持っているとは言えるものの、プラン策定後6ヶ月間しか経過しておらず、市民評価アンケート結果以外の象徴的な成果指標もないことから、『まだ評価すべき時期に至っていない』と考える。

○ 車座ミーティングなどの新規事業への参加や、積極的な市の取り組みが報道される様子をしばしば見ることによって、まちづくりが身近になった実感がある。一方で、地区によっては地域づくり活動への関心が低くなっているような印象のところもあり、特別な関心を持つ人以外にとっては、従来とそれ程変わらない、との意見もある。

## 3. その他

### (1) 個別施策について

- メールマガジンは、市民にとって市政情報を入手できる貴重な機会であるので、定期的な発信が有効である。また、デートスポットやおすすめグルメなど、若者向けの情報発信を積極的に行うべきである。
- 車座ミーティング・車座ランチについて、参加者以外も見学できるように、イベント会場などでの開催を検討すべきである。

### (2) 市民評価アンケートについて

- ◎ 市民評価アンケートは、市民の意向や実感を把握するために有意義なものであるため、今後とも継続していただきたい。なお、設問文の修正など更なる改善を求めたい。
- 「指標④町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします」の質問について、回答者が「地域活動」の定義を狭く理解する恐れがあるので、「市民活動」「ボランティア活動」がこれに含まれることが分かるように、質問文を修正して、次の市民評価アンケートを実施すべきである。

## 約束1 市民主権システムを実現します

めざす姿 市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民が主体のまちづくりが進められています。

### 評価結果

1. 数値目標の達成率(「○」の割合)

6指標／7指標(「-」を除く)

2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)

2指標／3指標

3. 個別施策(「-」を除く)

進捗率 A、B評価 7／7

達成率 A、B評価 2／2



市民のまちづくりへの関心は高まる傾向がみられ、めざす姿に向けて「**おおむね順調に推移**」

3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	7	1
B	0	1
C	0	0
-	0	5
合計	7	7

**進捗率**

A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている -: 未着手

**達成率**

A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
C: 遅れている -: 判断できない

1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。	○
②市政に意見が言える機会・場所・方法について満足している市民を増やします。	×
③市政情報の提供量や内容に満足している市民を増やします。	○
④町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。	○
⑤公募枠のある審議会等の割合50%を目指します。	○
⑥携帯サイトのアクセス数200,000件を目指します。	-
⑦メールマガジン登録件数 1,900件を目指します。	-
⑧「わたしのアイデアポスト事業」の投書件数 140件を目指します。	○
⑨市民参加型まちづくり1%システム支援事業数 100事業を目指します。	-
⑩市政懇談会の参加者数(主催者: 弘前市町会連合会) 1,000人を目指します。	○

2. 注目指標は上記の色塗り

○: 目標を達成済み  
×: 目標を達成できない  
-: 判断できない

## 約束 2 - (1) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【農業振興】

### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

(1) めざす姿とその達成状況を示す指標との関係

- ◎ めざす姿に「農業所得が向上します」という目標を掲げているので、農業産出額よりも「農業所得」が適当である。
- ◎ 同様に、めざす姿に「安全・安心な農産物の生産が拡大し」という目標を掲げているので、「安心・安全と認証された農産物の生産量・生産額」、又は「弘前市で生産した農産物を全て安心・安全と考えて、弘前市全体の生産量・生産額」が重要な指標である。
- ◎ 数値目標の中に、「指標⑤果樹共済加入率」など生産者側に関するものが多く、消費者の安心・安全に関する目標がないので、これを加えるべきである。
- 農産物直売所に関する指標が二つある(⑧、⑨)ので、一つにまとめることを検討すべきである。
- 農業産出額だけではなく、加工品に関する指標を目標設定すべきである。

(2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値(結果)

- 指標⑧、⑨の農産物直売所の目標について、「産直マルシェ」を見ても、多様でたくさんの店舗が出店されていることが重要なので、「店舗数」を数値目標に追加すべきである。

### 2. 達成状況の評価について

◎ 積極的に多様な数値目標を掲げ、『この目標達成に向けて着実に取り組んでいるが、現段階では成果が表れているとは言い難い』状況にある。

今後、現行の注目指標である「農業産出額」に加えて、「農業所得」や「農業生産額」の推移も見ながら、達成度合いを判断していくことを求めたい。

### 3. その他

#### (1) 個別施策について

- 新規就農者の増加に向けた取り組みの強化が必要である。
- 消費者が安心して購入できるような「ブランドづくり」を、更に進めていただきたい。

**(2) 市民評価アンケートについて**

(なし)

約束2-(1) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【農業振興】

めざす姿 安全・安心な農産物の生産が拡大し、農業所得が向上します。

評価結果

- 1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
4指標／8指標(「-」を除く)
- 2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
0指標／1指標(「-」を除く)
- 3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 13／14  
達成率 A、B評価 4／6



取り組みを強化しているものの、めざす姿に向けては  
「十分な成果が得られていない」

3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	11	2
B	2	2
C	1	2
-	0	8
合計	14	14

進捗率

A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている -: 未着手

達成率

A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
C: 遅れている -: 判断できない

1. 7つの約束 数値目標の達成度

指標	達成率
① 農業産出額 400億円を目指します。	-
② 農業生産法人数(累計) 36団体を目指します。	○
③ 集落営農組織数(累計) 35組織を目指します。	○
④ 新規就農者数(累計) 122人を目指します。	×
⑤ 果樹共済加入率 50.0%を目指します。	○
⑥ わい化栽培率 20.0%を目指します。	×
⑦ りんご海外輸出货量 30,000トン(青森県産)を目指します。	×
⑧ 主要農産物直売所の利用者数 1,325,000人を目指します。	×
⑨ 主要農産物直売所の販売金額 1,697,000千円を目指します。	○

2. 注目指標は上記の色塗り

○: 目標を達成済み  
×: 目標を達成できない  
-: 判断できない

## 約束 2 - (2) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【観光振興】

### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

(1) めざす姿とその達成状況を示す指標との関係

- ◎ 「指標③観光消費による経済波及効果額」については、市町村単独の状況を正確に算定するのは困難な面があり、いくつかの基礎的な指標を比較した方が実際の動向が把握できるので、2年に1回波及効果額を算定する必要があるか再度検討すべきである。

(2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値 (結果)

- ◎ 「①観光客入込数 1,000 万人」、「②宿泊者数 70 万人」、「④外国人宿泊者数 8 千人」などの目標は元々かなり高く、しかも東日本大震災の影響を考えると、高く積極的すぎると思われる。東日本大震災をはじめとする社会環境の変化に的確に対応して、プランを改訂・実行していくことを求めたい。

### 2. 達成状況の評価について

- ◎ かなり高い数値目標を掲げて施策を展開しているものの、観光に関する状況は極めて厳しい局面を迎えており、『十分な成果は得られていない』という評価が現段階では妥当であるが、実現に向けて頑張りたい。
- ◎ 観光客入込数を国内と国外に分けた場合、国内に関しては比較的良いが、国外の落ち込みが激しい。単に厳しいと評価するよりも、国内国外の需要の動向なども含めて記述した方が、より客観的・正確な評価となる。

### 3. その他

#### (1) 個別施策について

- ◎ 東日本大震災以降、海外の人が日本に来ることに対する心理的なブレーキは、日本人が思っている以上に強いので、震災を乗り越えて誘客するための、新しい取り組みや工夫などを海外にアピールする必要がある。
- ◎ 弘前の街は、コンパクトで、自転車で動けるところが評価されており、十分にまち歩きで楽しめる街なので、レンタサイクルやまち歩きなどを、更に充実させて欲しい。

- 外国語表記の案内板の設置や宿泊施設の従業員の外国語研修などについて、なかなか進捗が見られないので、早急に取り組むべきである。
- 桜まつりの際に中心市街地に観光客を誘導するために、土手町や駅前の駐車場、学校のグラウンドなどの活用を検討すべきである。

## **(2) 市民評価アンケートについて**

(なし)

## 約束2-(2) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【観光振興】

めざす姿 東北新幹線新青森駅開業や弘前城築城400年祭などを契機に、交流人口が増加することによって、観光関連産業が活性化し、雇用拡大が図られます。

### 評価結果

1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
2指標／4指標(「-」を除く)
2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
1指標／1指標(「-」を除く)
3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 12／12  
達成率 A、B評価 6／8



さまざまな誘客活動を展開することで、効果的な誘客につなげられる傾向が見られるものの  
**「十分な成果は得られていない」**

### 1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①観光客入込数 1,000万人を目指します。(39.6%増)	○
②宿泊者数 70万人を目指します。(42%増)	○
③観光消費による経済波及効果額 530億円を目指します。(30%増)	-
④外国人宿泊者数 8千人を目指します。(85%増)	×
⑤県内外物産展売上額 3億円を目指します。(29.3%増)	×
⑥ホテル旅館の地元食材調達率の向上を目指します。 新規H23の基準値取得後に目標値を設定	-
⑦観光振興による新規雇用を増やします。 新規H23に設定手法を研究したうえで目標値を設定	-

### 3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	11	4
B	1	2
C	0	2
-	0	4
合計	12	12

#### 進捗率

A:工程表どおり実施済み B:概ね工程表どおり  
C:工程表より遅れている -:未着手

#### 達成率

A:目標を達成済み B:順調に推移  
C:遅れている -:判断できない

### 2. 注目指標は上記の色塗り

○:目標を達成済み  
×:目標を達成できない  
-:判断できない

## 約束 2 - (3) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【商工業振興】

### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

(1) めざす姿とその達成状況を示す指標との関係

- ◎ めざす姿の「雇用拡大」の達成状況を図るために、「市全体の雇用者数と失業者数の推移」を関連指標として、記載すべきである。
- ◎ めざす姿の「商業・サービス業が活性化」に関する指標が「⑥中心市街地空き店舗率」しかない。「小売販売額」の推移などを追加すべきである。
- 中心市街地空き店舗の解消は、市場における需要と供給の問題なので、行政の努力では解消しづらい。市が主要な目標として掲げることが正しいのか疑問を感じる。
- ◎ 「指標⑤誘致企業数」については、企業数の増加を目指すだけでは十分ではない。誘致企業による雇用者数の具体的目標を設定すべきである。
- 「指標⑤誘致企業数」については、「出荷額」で判断すべきである。
- 「指標④起業家支援事業所数」には、夢クリエイト工房に限らず、「仕事おこし推進事業」などの他の事業も含めて、目標設定、評価すべきである。

(2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値 (結果)

- ◎ 空き店舗の解消については、中心市街地活性化に関する計画の目標数値を活用しているが、この計画の数値は全国的にみても達成困難なものが多い。このように、既にある分野別計画から数値を引用したものについては、再度その数値を見直す必要がある。

### 2. 達成状況の評価について

- ◎ 雇用について、「市全体の雇用者数と失業者」ではなく、市の取組が成果に直結する「施策による新規雇用数」を目標として設定しているにもかかわらず、それが未達成である。「中心市街地空き店舗率」と合わせて、主要な2つの目標が未達成であるので、『現段階では十分な成果が得られていない』と評価せざるを得ない。
- ◎ 近年の雇用者数や失業者数の推移をみても一進一退の状況にあり、今後の見通しが厳しいものの市民の期待が高い分野であるので、評価結果を踏まえて、目標設定や個別施策のあり方について、再度しっかりと見直しする必要がある。

### 3. その他

#### (1) 個別施策について

- ◎ 多くの若者は「県外にはできれば出たくない、弘前市に残りたい。」と  
思っているため、雇用の拡大については、特に頑張ってもらいたい。
- 企業誘致については、法人税を数年間無償にするとか、土地を数年間無償で  
提供するとか、地元失業者雇用への補助金交付など、他市にない強みをもう少し打  
ち出すべきである。
- 空き店舗率の改善については、空き店舗を融資なり助成で埋めたとしても、抜  
本的な対策を講じなければ、遅かれ早かれまた空き店舗になる。まち全体に魅力  
がなければ人が来ないので、約束3の魅力あるまちづくりにも関連するが、観光  
客が来て、また来たいと思えるような取り組みを実施するべきである。

#### (2) 市民評価アンケートについて

(なし)

約束2-(3) ひろさき農業・産業おこしに取り組みます【商工業振興】

めざす姿 商業・サービス業が活性化し、地域資源を活かした新商品開発や企業立地が促進され、雇用拡大が図られます。

評価結果

1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
4指標／6指標(「-」を除く)
2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
2指標／3指標
3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 9／9  
達成率 A、B評価 5／5



目標達成に向けて着実に取り組んでいるものの、「十分な成果は得られていない」

3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	9	4
B	0	1
C	0	0
-	0	4
合計	9	9

進捗率

A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている -: 未着手

達成率

A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
C: 遅れている -: 判断できない

1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
① 施策の取り組みによる新規雇用(累計) 350人を目指します。 ○ 商工業振興による新規雇用 228人 ○ 農林業振興による新規雇用 122人 (※観光振興による新規雇用は、H23に設定)	×
② 農商工連携対策支援事業所数(累計) 20件を目指します。	○
③ 新商品・新技術開発支援事業所数(累計) 50件を目指します。	○
④ 起業家支援事業所数(累計) 15件を目指します。	○
⑤ 誘致企業数(累計) 5社を目指します。	○
⑥ 中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。	×

2. 注目指標は上記の色塗り

○: 目標を達成済み  
×: 目標を達成できない  
-: 判断できない

### 約束3 魅力あるまちづくりを進めます

#### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

##### (1) めざす姿とその達成状況を示す指標との関係

- ◎ めざす姿の「地域資源・資産の効果的な活用によるまちづくりや住環境の整備を進める」ということについて、本来は、「指標③中心市街地の通行量の増加」とイコールではない。また、「指標⑥弘南バス利用者数の維持」についても、日常生活で車を使って暮らしている人から見ると、その必要がない。それぞれ指標としてふさわしいか疑問がある。
- 市民でない方が、市民が気づかない弘前の良い部分や悪い部分に気づくこともあるので、指標の中に「外の目」を入れることを検討すべきである。
- 「指標①弘前が住みよいと思う市民を増やします。」の住みやすいと思う理由には「指標②の景観の良さ」や「指標⑤の安全・安心な生活環境」も含まれると思われるので、一つにまとめることを検討すべきである。
  
- ◎ 住環境の整備に関する指標がないので、公共施設の整備や施設更新、住宅の確保など、これに関する指標を掲げるべきである。
  
- ◎ 「低炭素型」に関する指標について、公共施設に導入したかどうかしか指標に入っていない。一方でCO<sub>2</sub>排出量は、県の見なし計算が市町村案分され、各市町村の努力が反映されないので、「弘前市ではCO<sub>2</sub>を何%削減します、その方策として公共施設にこういうものを設置します。」と記載した方が分かりやすいし、市民も納得すると思う。
- ◎ 太陽光の補助金を出して何十世帯・何キロワットを目指すとか、それによってCO<sub>2</sub>がどれくらい削減するとか、公共施設に新エネルギーを導入することによりCO<sub>2</sub>どれくらいの削減を目指しますとか、目標を明確に設定すべきである。
- 「指標⑧新エネルギーを導入した公共施設数」及び「指標⑨省エネルギーを導入した公共施設数」は共にエネルギー関連の指標であり、一つにまとめることを検討すべきである。

##### (2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値 (結果)

(なし)

## 2. 達成状況の評価について

- ◎ 数値目標の達成度について、目標達成済みが4指標、達成できないが3指標、判断できないが5指標という状況を踏まえれば、『現段階では十分な成果が得られていない』との評価が妥当である。

## 3. その他

### (1) 個別施策について

- ◎ 「指標⑥弘南バスの利用者数の維持」が達成していない上、今後の見通しが更に厳しいと思われるので、更なる対策を講じるべきである。
- 弘南バス利用促進のために、バス停での「待ち時間案内表示」が必要である。財政面で厳しいと思うが、工夫して対策を検討すべきである。
  
- ◎ ただ単に空き店舗率を埋めるだけでは、再度空き店舗になってしまうので、並行して弘前市自体が魅力あるまちとなる施策を講じるべきである。
  
- ◎ 新エネルギービジョンが古いので、対応が必要である。
- 公共施設だけでなく、市の補助などによって、民間住宅の新エネルギー導入率を高めるべきである。
- 歩道での地熱利用を進めて、「積雪ゼロ」を目指すべきである。

### (2) 市民評価アンケートについて

- ◎ 市民評価アンケートの結果については、属性別クロス集計を、多角的に分析・評価して、今後の施策展開に活用するべきである。
- 主婦やサラリーマン、学生など、回答する人の属性によっては「住みよい」と思う感じ方も異なるので、単純に「弘前市は住みよいと思いますか」に「○」とする市民評価アンケートだと不十分である。
- 「弘前市は住みよいと思いますか」の設問には、「ここが凄い」とか「ここが良い」などのコメントが入れられるスペースなり、それを活用する工夫が必要である。

### 約束3 魅力あるまちづくりを進めます

めざす姿 地域資源・資産の効果的な活用によるまちづくりや住環境の整備を進め、低炭素・循環型の市民が暮らしやすい魅力あるまちになります。

#### 評価結果

1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
4指標／7指標(「-」を除く)
2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
2指標／2指標(「-」を除く)
3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 19／21  
達成率 A、B評価 5／5



目標達成に向けて着実に取り組んでいるが「**十分な成果は得られていない**」

#### 3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	18	4
B	1	1
C	2	0
-	0	16
合計	21	21

##### 進捗率

A: 工程表どおり実施済み  
B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている  
-: 未着手

##### 達成率

A: 目標を達成済み  
B: 順調に推移  
C: 遅れている  
-: 判断できない

#### 1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①弘前が住みよいと思う市民を増やします。	○
②弘前の景観に魅力を感じる市民を増やします。新規 H23の基準値取得後に目標値を設定。	-
③中心市街地活性化基本計画に掲げる目標指標 中心市街地歩行者・自転車通行量(平日・休日の平均)25,000人を目指します。	×
中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。	×
④重要伝統的建造物群保存地区(仲町地区)の消流雪溝整備を進めます。整備率 76.9%	○
整備延長 1,255m	○
⑤安全・安心な生活環境だと思える市民を増やします。新規 H23の基準値取得後に目標値を設定	-
⑥弘南バス(弘前市関係路線)及び弘南鉄道の利用者数 5,500,000人を維持します。	×
⑦リサイクル率 14.9%を目指します。	-
⑧新エネルギーを導入した公共施設数 3施設を目指します。	-
⑨省エネルギーを導入した公共施設数 インハウスエスコ事業実施 6施設を目指します。	○
エスコ事業実施 1施設を目指します。	-

○: 目標を達成済み  
×: 目標を達成できない  
-: 判断できない

#### 2. 注目指標は上記の色塗り

## 約束４－（１） 子育てするなら弘前で、を目指します【子育て】

### 1. 「7つの約束」（政策）の目標のあり方について

#### (1) めざす姿と指標との関係

- ◎ 「指標②保育所待機児童数ゼロ」に関連して、一時保育や延長保育に関する指標も設定すべきである。また、病児保育、病後児保育は、施設数などの面で、ある程度高い水準で行政サービスが提供されていることが市民に分かるように指標を設定した方が良いと思われる。
- ◎ 一時保育、延長保育、病児・病後児保育の目標がない代わりに市民評価アンケートの「指標④放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。」「指標⑤子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。」や「⑥青少年の健全育成活動（子ども会等を含む）に参加したことがある市民を増やします。」などの指標が設定されているが、直接どういうサービスをやっているかという数値をあわせて記載した方が的確に市の努力を測ることが可能だと考える。
- 「指標②保育所待機児童数0人を維持します。」と「指標③放課後待機児童数0人を目指します。」をまとめることを検討すべきである。
- 大人の都合だけではなく、子供たちが充実した内容を送れる児童館とするために、児童館構成員のスキルアップに関する指標を盛り込むべきである。
- ◎ 不満を表現することさえできない若い母親もいると思う。このように、数値が全てを的確に表すわけではないので、市民の実感を大切にして、「声なき声を聞く」という姿勢を持って、今後とも達成状況の評価を進めることを期待する。
- 「指標①合計特殊出生率」については、子供をつくるかどうかは最終的に市民一人一人の決断であるので、指標とすることに疑問を感じる。  
行政は子どもを生むことを困難にしている要因をつきとめ、早急にそれを取り除く必要があるが、あとは一人ひとりの女性の出産に関する決断を尊重していくべきである。

#### (2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値（結果）のあり方

- ◎ 「指標①合計特殊出生率」の目標値 1.30 は、設定の経緯を聞くと根拠がある数字となっていると思われる。

## 2. 達成状況の評価について

- ◎ 最重要指標である合計特殊出生率について、下げ止まっているかは微妙なものの小康状態ではあるので、他の指標の達成状況も勘案すると、『概ね順調に推移』という自己評価が妥当と言える。
- ◎ かつて青森県は全国で出生率が高い方だったが近年低迷しており、弘前市も、比較的子育て環境が良いにも拘らず、出生率が低い状況にある。よって、この状況に関する分析を更に進めて、これを踏まえた施策展開をしていく必要がある。

## 3. その他

### (1) 個別施策について

- ◎ これから子供を育てようとする若い世代は、遅い時間帯まで預かることが可能な保育園などの環境が整っていれば、もっと子供をつくる動機づけになると思うので、保育園もしくは児童館での時間を伸ばしていただきたい。
- 仕事を持つ母親や企業の立場としては、子供が熱を出すと保育園に迎えに行かなければならない状況にあるので、保育園への看護師の配置も必要だと考える。
- ◎ 弘前は個人の診療所や病院が非常に多い自治体であり、小学校などは医師と密に連絡をとれる体制をとっているため、保育園と医療機関の連携も同様に構築すべきである。
- ただ単に預かるだけの児童館ではなく、「約束4－(2)人づくり」とも連携して、学区を越えたスポーツの育成や学力を高めるための施設としての使用も検討すべきである。
- ◎ 所得向上のための施策も連携して実施すべきである。
- 企業と行政が連携して、休暇を取りやすい環境を作るべきである。

### (2) 市民評価アンケートについて

(なし)

約束4-(1) 子育てするなら弘前で、を目指します【子育て】

めざす姿 子育てに適した環境が整って、安心して子どもを産み、元気に育てることができ、子ども達の笑顔があふれています。

評価結果

- 1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
3指標／3指標(「-」を除く)
- 2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
1指標／1指標(「-」を除く)
- 3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 7／7  
達成率 A、B評価 2／2



子育てに適した環境は高まる傾向がみられ、めざす姿に向けて「おおむね順調に推移」

3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	7	1
B	0	1
C	0	0
-	0	5
合計	7	7

進捗率

A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている -: 未着手

達成率

A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
C: 遅れている -: 判断できない

1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①合計特殊出生率 1.30を目指します。	-
②保育所待機児童数 0人を維持します。 ※産休・育休明け、年度途中就労による入所基準を改善します。	○
③放課後待機児童数 0人を目指します。	○
④放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。 新規 H23の基準値取得後に目標値を設定	-
⑤子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。 新規 H23の基準値取得後に目標値を設定	-
⑥青少年の健全育成活動(子ども会等を含む)に参加したことがある市民を増やします。	○

2. 注目指標は上記の色塗り

○: 目標を達成済み  
×: 目標を達成できない  
-: 判断できない

## 約束４－（２） 子育てするなら弘前で、を目指します【人づくり】

### 1. 「7つの約束」（政策）の目標のあり方について

#### (1) めざす姿と指標との関係

- ◎ 「指標①学習状況調査通過率順位」のような目標は、ともすれば教育委員会が嫌がる傾向がある中で、しっかりと目標設定したということは、弘前市が生き残るために重要なことであり評価できる。
- ◎ めざす姿の「地域の伝統文化」に関する指標を、設定の仕方が難しいが盛り込むべきで。
- 「指標②授業がどの程度分かりますか」について、学習指導要領が難しくなり、分からない生徒が増える可能性が高い中で、向上する目標値を設定しても実現性に疑問がある。
- 「指標②勉強が大切だと思う」のは大人になってからであるので、傾向的にどのように推移しているかは参考としても良いが、指標とすることに疑問がある。
- 「指標①」と「指標②」と「指標③」を、「指標④」と「指標⑤」を、「指標⑥」と「指標⑦」を、「指標⑧」と「指標⑨」と「指標⑩」を、「指標⑪」と「指標⑫」をそれぞれまとめることを検討すべきである。

#### (2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値（結果）のあり方

（なし）

### 2. 達成状況の評価について

- ◎ 義務教育分野と生涯学習分野で達成状況が異なり、生涯学習分野については『概ね順調』と判断できるが、義務教育分野については、意欲的・積極的な目標を設定しているがその達成状況を『現段階では判断できない』と考える。
- ◎ 学力に関する数値目標の設定には様々な意見がある中で、敢えて目標に掲げていることは評価できるので、実現を期待したい。

### 3. その他

#### (1) 個別施策について

- 33人学級編成をするよりも、子どもの数が減ってきているので、複式学級を解消することが、教育環境を充実するには重要なことである。
- 複式学級の解消については、単独市町村ではなかなかできないかもしれないので、市町村を越えた統廃合を実施することも検討していく必要がある。
- 地域の伝統や文化を誇りに思う人材を育てていくために、弘前市で教育特区をつくるなどして、学校を退職されたOBの先生方の協力を得て、弘前の歴史や資源を伝える授業を実施するべきである。
- 「児童観劇教室」のような事業を続けているのは県内でも稀なので、是非続けるべきである。
- 子どもたちにとってキャリア教育が非常に重要な時代であり、地域のモデルを知ることが効果的なので、マイスターのような事業を積極的に進めるべきである。
- キッザニアのような施設は東京であれば民間が運営することが可能であるが、地方圏だと難しいので、官が工夫しながら職業体験ができる施設をつくることも、今後の学習意欲の面で必要である。
- 図書館が7時で終わるが、部活が終わって家に帰る前に、子ども達が気軽に勉強をできる施設を市内に増やすべきである。公民館などの各地域で学生たちの居場所になるような仕組みづくりが必要である。

#### (2) 市民評価アンケートについて

- 「指標⑦文化・芸術活動をしている市民を増やします。」という指標について、活動する人を増やすのも必要だが、豊かな心を持って市民が文化・芸術に「触れる」ことも大切なので、設問を工夫するべきである。

約束4-(2) 子育てするなら弘前で、を目指します【人づくり】

めざす姿 次代を担う子ども達の才能が育成され、地域の伝統や文化を誇りに思い、継承する人材が育っています。

評価結果

- 1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
8指標／11指標(「-」を除く)
- 2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
3指標／3指標
- 3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 14／14  
達成率 A、B評価 0／0



文化・芸術・スポーツ活動等をする市民の増加傾向が見られ、めざす姿に向けて「**おおむね順調に推移**」

3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	11	0
B	3	0
C	0	0
-	0	14
合計	14	14

**進捗率**  
A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている -: 未着手  
**達成率**  
A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
C: 遅れている -: 判断できない

1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①青森県学習状況調査における通過率順位3位以内を目指します。小学5年生(国・社・算・理)	○
中学2年生(国・社・数・理・英)	×
②青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を示す割合の増加を目指します。小学5年「勉強が好きだ」	-
「勉強は大切だ」	-
「授業がどの程度分かりますか」	-
中学2年生「勉強が好きだ」	-
「勉強は大切だ」。	-
「授業がどの程度分かりますか」	-
③小学校で33人学級を実施している学年の割合 66.6%を目指します。	-
④スポーツ全国大会・東北大会参加件数 56件を目指します。	○
⑤文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数 7件を目指します。	×
⑥市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。	○
⑦文化・芸術活動をしている市民を増やします。	○
⑧スポーツ、レクリエーションをしている市民(月1回以上)を増やします。	○
⑨スポーツ施設の利用者数 1,050,000人を目指します。	○
⑩レクリエーション施設の利用者数 91,000人を目指します。	×
⑪大学等を利活用する市民の数を増やします。	○
⑫国外交流事業の参加者数 580人を目指します。	○

2. 注目指標は上記の色塗り

○: 目標を達成済み  
×: 目標を達成できない  
-: 判断できない

## 約束5 命と暮らしを守ります

### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

#### (1)めざす姿と指標との関係

- ◎ 「安心・安全、自立して市民が健康的な生活を送っている」という目標からすると、「健康寿命」や「医療関係施設の充実」具合、「救急車の到達時間」などに関する指標を設定することで市民に分かりやすくなる。
- ◎ 障がいのある方は就業意欲が高くてもなかなか機会がないので、就労支援事業の充実について指標化するべきである。
- ◎ 運動習慣がない人や禁酒している人の割合など、実態が分かる数値を「参考値」として記載するべきである。
- ◎ 「指標③自立して生活できる高齢者の割合79.2%を維持します」について、自立して生活できる高齢者が増えることは理想だが、介護が必要な方がいるのも事実である。介護認定を受けなくても良い人の割合を維持するという表現については、変えるべきである。
- 「指標⑥の健康だと思ふ市民を増やす」は各個人の意識の問題であり、いろいろな施策をしてもなかなか達成が困難だと思われるので、違う指標に変えるべきである。
- 「指標②」と「指標⑥」を、「指標③」と「指標⑦」を、「指標④」と「指標⑧」を、「指標⑤」と「指標⑨」をそれぞれにまとめることを検討すべきである。

#### (2)指標毎の基準値、目標値、22現状値(結果)のあり方

- ◎ 目標の設定について、「自殺者数48人以下」という表現を再考する必要がある。例えば「5%削減します」などの表現に変えるべきである。
- ◎ 「指標⑤育児に自信が持てない人の割合6.0%を目指します」については、6.0%を目指すのではなく「0」を目指すべきであるので、理想値を明示した上で、4年間で達成する目標を設定するなど、表現方法を変えるべきである。

## 2. 達成状況の評価について

- ◎ 自己評価では「おおむね順調に推移している」としているが、指標設定に関する再検討が必要なことや、「自立して生活できる高齢者の割合79.2%維持」や「健康だと思える市民の割合の増加」の目標が達成できていないことを鑑みれば、『現段階で、おおむね順調に推移とまでは言いきれない』と考える。

## 3. その他

### (1) 個別施策について

- 自殺の問題については、命の電話などの相談窓口の存在を知らずに、誰にも相談できない人もいるかもしれないので、そのような窓口があることを知ってもらうよう周知するべきである。

### (2) 市民評価アンケートについて

- 「指標⑦生きがいを持っている60歳以上の市民を増やします」については、何を根拠に生きがいを持っているか分からないので、アンケートの設問を工夫すべきである。

## 約束5 命と暮らしを守ります

めざす姿 “赤ちゃんから高齢者まで”の命と暮らしの安心・安全づくりが充実し、市民が健康的な生活を送っています。

### 評価結果

1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
4指標／6指標(「-」を除く)
2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
3指標／3指標
3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 10／10  
達成率 A、B評価 6／7



市民の関心が高まる傾向が見られ、めざす姿に向けて  
**「おおむね順調に推移」**

### 3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	9	1
B	1	5
C	0	1
-	0	3
合計	10	10

#### 進捗率

A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている -: 未着手

#### 達成率

A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
C: 遅れている -: 判断できない

○: 目標を達成済み

×: 目標を達成できない

-: 判断できない

### 1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①自殺者数 48人以下を目指します。	-
②各種がん検診受診率 5%アップ(H25 対H21実績比)を目指します。	○
③自立して生活できる高齢者の割合(要介護認定を受けていない高齢者の割合)79.2%を維持します。	×
④一般の民間企業における雇用障がい者数の割合 1.83%を目指します。	○
⑤育児に自信がもてない人の割合 6.0%を目指します。	○
⑥健康だと思う市民を増やします。	×
⑦生きがいを持っている60歳以上の市民を増やします。	○
⑧生活に満足している障がい者を増やします。	-
⑨子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。 新規 H23の基準値取得後に目標値を設定	-

### 2. 注目指標は上記の色塗り

## 約束6 津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります

### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

#### (1)めざす姿と指標との関係

- ◎ 定住自立圏構想を着実に進めるだけでなく、その結果めざす姿にある「地域全体の活性化が図られる」ことが目標なので、この地域活性化の観点から判断することが必要である。
- そこで、弘南鉄道の利用客数や観光客入込数の指標に加えて、多くの定住自立圏構想の中心分野である医療に関する指標の設定を検討すべきである。

#### (2)指標毎の基準値、目標値、22 現状値(結果)のあり方

(なし)

### 2. 達成状況の評価について

- ◎ 中心市宣言の締結、ビジョン策定の評価については、「順調」と評価できる。一方で、地域全体の活性化については、交通が「達成できない」、観光と合併評価が「判断できない」という状況にある。  
よって、『プランどおり着実に個別施策を進めているが、現段階では十分な成果が得られていない』という評価が妥当である。

### 3. その他

#### (1)個別施策について

- 行政の役割として、コーディネートや橋渡しが非常に重要であるので、今後とも近隣市町村との連携強化していただきたい。
- 弘前は、津軽の牽引役であるので、上手く連携しながら、かつ、パイオニア的な存在であって欲しい。

## (2) 市民評価アンケートについて

(なし)

### ※「定住自立圏構想」に関連する用語解説

#### ・定住自立圏構想

地方圏において安心して暮らせる地域を形成するため、中心市と周辺市町村が相互に連携・協力しながら、生活に必要な生活機能を確保して魅力あふれる地域の形成を進めて人口の定住を促進するもの。

#### ・中心市宣言

中心市が、連携する意思を有する周辺市町村の意向に配慮しつつ、地域全体の中心的な役割を担う意思等を公表すること。

#### ・定住自立圏形成協定

中心市と周辺市町村が、1対1で連携する取り組みについて、それぞれの議会の議決を経て定める協定。

#### ・周辺市町村

中心市（人口が5万人程度以上で、昼間人口を夜間人口で除した数値が1以上の都市）と近接し、経済、社会、文化又は住民生活において密接な関係を有する市町村。

#### ・定住自立圏共生ビジョン

定住自立圏形成協定の締結により形成された圏域全体における、将来像や連携して推進する具体的取組を記載したもの。

## 約束6 津軽地域の中核都市として、近隣市町村との連携強化を図ります

めざす姿 弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村と医療、公共交通、観光などの分野で互いに連携・協力することにより、地域全体の活性化が図られます。

### 評価結果

1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
1指標／2指標(「-」を除く)
2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
1指標／2指標
3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 3／3  
達成率 A、B評価 3／3



近隣市町村と連携・協力する体制づくりに向けた取り組みが着実に進められているものの  
**「十分な成果は得られていない」**

### 3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	2	3
B	1	0
C	0	0
-	0	0
合計	3	3

#### 進捗率

A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
C: 工程表より遅れている -: 未着手

#### 達成率

A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
C: 遅れている -: 判断できない

### 1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①平成23年3月までに、中心市宣言することを目指します。	○
②平成23年10月までに、定住自立圏形成協定の締結を目指します。	-
③平成24年2月までに、定住自立圏共生ビジョンの策定を目指します。	-
④定住自立圏構想連携施策数 14件を目指します。	-
⑤定住自立圏圏域市町村をつなぐ広域バス路線及び弘南鉄道の利用者数 3,130千人	×
⑥定住自立圏圏域の観光客入込数 15,717千人を目指します。(39.6%増)	-
⑦(H22~)3市町村の合併をよかったと思う市民の割合 新規 H23の基準値取得後に目標値を設定	-

### 2. 注目指標は上記の色塗り

○: 目標を達成済み  
 ×: 目標を達成できない  
 -: 判断できない

## 約束7 市職員のパワーを引き出し、市役所の仕事力を高めます

### 1. 「7つの約束」(政策)の目標のあり方について

#### (1) めざす姿と指標との関係

- ◎ めざす姿「前向きに取り組む職員の育成」を測るためには、人事評価制度を導入して、頑張る・努力する職員を適正に評価する必要がある。これが指標にないので、設定を検討すべきである。
- ◎ 「指標⑥職員提案が施策に反映された件数9件」については、市役所職員の本来の仕事であるので、これを敢えて目標に設定する必要があるのか疑問がある。
- 「指標②ボランティア・地域活動に参加している職員の割合」については、職員個人の問題であり、市の計画の目標に設定することが適当なのか、疑問がある。
- 注目度の高い「エリア担当制度」に関する指標の設定を検討すべきである。
  
- ◎ めざす姿に「市民ニーズの的確な把握やサービスの向上」とあるが、これを測る指標が少ないので設定すべきである。
- ◎ 「指標①職員仕事ぶりの市民満足度向上」、「指標④窓口での応対に満足している市民の増加」、「指標⑤窓口での手続き時間に満足している市民の増加」ともにアンケート調査結果を指標としており、既に数値が高い状況にある。アンケート結果は、市の取り組みとは別の要因が結果を左右することがあるので、これを更に高めるといふ目標設定が適当なのか疑問がある。
- ◎ 「指標①職員仕事ぶりの市民満足度向上」、「指標④窓口での応対に満足している市民の増加」、「指標⑤窓口での手続き時間に満足している市民の増加」については、重複しているので、まとめることを検討すべきである。特に、指標⑤は指標④に含まれる内容である。
- より市民ニーズに的確に対応するというこで、「市役所の部局を超えた連携を測る指標」を設定すべきである。
  
- ◎ めざす姿「効率的・効果的な行政運営の実現」のうち、「指標⑦民間活用による削減効果額」は、指定管理者制度が市民には分かりにくい上に、この指標は、「効率的・効果的な行政運営」のごく一部分しか表わさないという課題もあるので、「人口当たり職員数」をはじめより基礎的かつ一般的にこれを表す指標を設定すべきである。

◎ 「指標⑨単年度の市債発行額のうち地方交付税措置のないものの割合」について設定しているが、他の自治体と比較でき、より一般的かつ合理的と思われる指標である「経常収支比率」、「実質公債費比率」、「財政力指数」などを設定すべきである。その中で経常的な経費である人件費や公債費の抑制を図り、将来的な財政見通しをたて、健全な財政運営を行っていくべきである。

(2) 指標毎の基準値、目標値、22 現状値（結果）のあり方

○ 「指標③各種研修受講者数750人を目指します」については、750人の根拠が説明されず、不明であり、また、職員研修の数を目標設定することが適当か、疑問がある。

○ 「指標②地域活動に参加する職員の割合65.0%を目指します」については、重要な取組であるので、更に高い目標値を設定すべきである。

◎ 「指標①職員仕事ぶりの市民満足度向上」、「指標④窓口での応対に満足している市民の増加」、「指標⑤窓口での手続き時間に満足している市民の増加」のアンケートについては、基準値が既に相当高いものを更に高めるというものであり、（意欲的かつ積極的な姿勢を評価しない訳ではないが）高過ぎる目標数値の設定に疑問を感じるので、市の取り組みが直結するような、より適当な指標、数値の設定を検討すべきである。

◎ 「⑦民間活用による削減効果額」は、「基準値0」ということで、これまでの取り組み実績に関する記載がなく、また、目標値の妥当性についても疑問があるので、再検討すべきである。

## 2. 達成状況の評価について

- ◎ 個別施策については、着実に取り組んでいるものの、再設定が必要な指標が多いことから、約束全体の評価については、現時点では「判断することができない。」
- ◎ めざす姿の「市民ニーズの的確な把握やサービスの向上」に関する指標がなく、また、「効率的・効果的な行政運営の実現」についても、人口当たり職員数や職員削減状況などの基礎的事項に関する説明がなかったため、今後、的確な対応を求めたい。
- 「指標①の職員の仕事ぶりの市民満足度を高める」、「指標④の窓口での応対に満足している市民を増やす」、「指標⑤の窓口での手続き時間に満足している市民を増やす」、この3つについて、以前よりも格段に良くなっており、評価に値することである。

## 3. その他

### (1) 個別施策について

- 平成23年度新たに導入している「エリア担当制度」への期待が高いが、まだ具体的な取組内容が市民に伝わっていないので、具体的に取組内容や目標をPRしていく必要がある。

### (2) 市民評価アンケートについて

(なし)

## 約束7 市職員のパワーを引き出し、市役所の仕事力を高めます

めざす姿 前向きに取り組む職員の育成により、市民ニーズの的確な把握やサービスの向上が図られ効率的・効果的な行政運営が実現しています。

### 評価結果

1. 数値目標の達成率(「○」の割合)  
7指標／9指標(「-」を除く)
2. 1のうち注目指標の達成率(「○」の割合)  
1指標／3指標
3. 個別施策(「-」を除く)  
進捗率 A、B評価 4／4  
達成率 A、B評価 3／3



職員の育成に対して新規事業や研修への派遣など、目標達成に向けて取り組んでいるが  
**「十分な成果は得られていない」**

### 3. 個別施策の達成度

施策数	進捗率	達成率
A	4	0
B	0	3
C	0	0
-	0	1
合計	4	4

#### 進捗率

A: 工程表どおり実施済み B: 概ね工程表どおり  
 C: 工程表より遅れている -: 未着手

#### 達成率

A: 目標を達成済み B: 順調に推移  
 C: 遅れている -: 判断できない

### 1. 7つの約束 数値目標の達成度

指 標	達成率
①職員の仕事ぶりの市民満足度を高めます。	×
②ボランティア・地域活動に参加している職員の割合 65.0%を目指します。	○
③各種研修受講者数 750人を目指します。	○
④窓口での応対に満足している市民を増やします。	×
⑤窓口での手続き時間に満足している市民を増やします。	○
⑥職員提案が施策に反映された件数 9件を目指します。	○
⑦民間活用による削減効果額 181,190千円を目指します。	○
⑧財政調整基金は、計画期間を通じて20億円を維持します	○
⑨単年度の市債発行額のうち地方交付税措置のないものの割合を減らします。	○

### 2. 注目指標は上記の色塗り

○: 目標を達成済み  
 ×: 目標を達成できない  
 -: 判断できない

## **まとめ**

まとめとして、全ての分野に共通する事項、特に重要な事項を以下に記載する。

### **【めざす姿とその達成状況を示す指標との関係】**

1. 「めざす姿」の達成状況について、よりの確に示す指標があるものや、「めざす姿」の主要な構成要素に関する指標が設定されていないものがあるので、適当な指標を新たに設定すべきである。
2. 「めざす姿」の達成状況の評価に当たって、市民評価アンケート結果を指標とすることは、適当であり、また必要なことでもある。しかし、社会情勢の影響を受けたり誤差が生じたりと、必ずしも万能ではないことに留意して、基礎的客観的なデータ指標や市役所の取り組みに関する指標等をあわせて活用することが必要である。
3. 「めざす姿」の達成状況の測定に当たって、目標値として設定しないものの、全体の評価に関連するデータや参考となるデータ等を、「関連指標」や「参考指標」といった形で、記載すべきである。この指標には、毎年度把握することができないもの、弘前市単独の数値を把握することができないもの、他自治体の数値・比較順位なども含めて、合理的なものを設定すべきである。更に、市民の分りやすさを大切にすることが必要である。
4. 指標の数が多くて分かりづらい面があるので、類似する指標が複数あるものについては、一つにまとめたり優先順位の高いものを選択するなどの工夫をすべきである。
5. 数値が全てを表すわけではないので、市民の実感を大切に、「声なき声を聞く」という姿勢を持って、今後とも達成状況の評価を進めることを期待する。

### **【指標毎の基準値、目標値、22 現状値（結果）のあり方】**

1. 過去の傾向を基礎に目標値を設定するのではなく、目標とすべき理想値を明示した上で、計画期間中に実現する目標値を設定すべきである。

2. 目標値の設定に当たっては、先進自治体の状況を把握して、よりの確な数値設定を検討すべきものがある。
3. プラン最終年度（平成25年度）の目標値を既に達成したものについては、新たに高い目標値の設定や、よりの確な指標への変更を行うべきである。
4. 市民評価アンケート指標で、基準値が既に相当高いものを更に高めるというものがあり、（意欲的かつ積極的な姿勢を評価しない訳ではないが）高過ぎる目標数値の設定に疑問を感じる。

### 【達成状況の評価について】

1. 分野（約束）毎に記載しているとおりである。今回の評価は、市民の実感等に基づきアクションプランの妥当性も含めて検討したものである。前述の「めざす姿の達成状況を示す指標」や「指標の基準値、目標値、22 現状値（結果）」等に関する提言に、的確に対応してプランを改訂し、実行・進行管理することを求めたい。
2. プランに掲載されていない基礎的なデータをみると、将来見通しは楽観できないので、各分野における引き続きの積極的な取り組みが必要である。
3. 目標が達成できていないものについては、その理由を把握・分析して、的確に改善・実行することを求めたい。

### 【その他】

1. 市民評価アンケートの結果については、属性別クロス集計を、多角的に分析・評価して、今後の施策展開に活用すべきである。
2. 市民評価アンケートは、市民の意向や実感を把握するために有意義なものである。今後とも継続していただきたい。なお、設問文の修正など更なる改善を求めたい。

3. アクションプランの実行や進行管理に当たっては、これまで以上に市民との情報共有を積極的に行い、行政の透明性の確保や市民との協働を更に促進していただきたい。また、シンプルで分かりやすい表現や市民の実感にマッチするような表現を心掛けていただきたい。
4. 東日本大震災をはじめとする社会環境の変化に的確に対応して、プランを改訂・実行していくことを求めたい。
5. 既存の分野別計画については、アクションプラン改訂や現下の社会情勢に対応して、的確に見直す必要がある。

## 参考：第三者評価と自己評価の結果

約束	第三者評価	自己評価
約束1 市民主権システム	現在の取り組みに市民が期待感を持っているとは言えるものの、プラン策定後6ヶ月間しか経過しておらず、市民アンケート結果以外の象徴的な成果指標もないことから、『まだ評価すべき時期に至っていない』	市民のまちづくりへの関心は高まる傾向が見られ、めざす姿に向けて『おおむね順調に推移』
約束2-(1) ひろさき農業・産業おこし【農業振興】	積極的に多様な数値目標を掲げ、『この目標達成に向けて着実に取り組んでいるが、現段階では成果が表れていると言いはれない』	取り組みを強化しているものの、めざす姿に向けては『十分な成果が得られていない』
約束2-(2) ひろさき農業・産業おこし【観光振興】	かなり高い数値目標を掲げて施策を展開しているものの、観光に関する状況は極めて厳しい局面を迎えており、『十分な成果は得られていない』という評価が現段階では妥当	効果的な誘客につなげられる傾向が見られるものの、『十分な成果は得られていない』
約束2-(3) ひろさき農業・産業おこし【商工業振興】	「施策による新規雇用数」と「中心市街地空き店舗率」、主要な2つの目標が未達成であるので、『現段階では十分な成果が得られていない』と評価せざるを得ない	目標達成に向けて着実に取り組んでいるものの、主要な指標である新規雇用者数が達成されていないなど、『十分な成果は得られていない』
約束3 魅力あるまちづくり	数値目標の達成度について、目標達成済みが4指標、達成できないが3指標、判断できないが5指標という状況を踏まえれば、『現段階では十分な成果が得られていない』との評価が妥当	目標達成に向けて着実に取り組んでいるが、『十分な成果は得られていない』
約束4-(1) 子育てするなら弘前で【子育て】	最重要指標である合計特殊出生率について、下げ止まっているかは微妙なもの小床状態ではあるもので、他の指標の達成状況も勘案すると、『概ね順調に推移』という自己評価が妥当	子育てに適した環境は高まる傾向が見られ、めざす姿に向けて『おおむね順調に推移』
約束4-(2) 子育てするなら弘前で【人づくり】	義務教育分野と生涯学習分野で達成状況が異なり、生涯学習分野については『概ね順調』と判断できるが、義務教育分野については、意欲的・積極的な目標を設定しているがその達成状況を『現段階では判断できない』	子ども達の才能や人材育成に繋がる文化・芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動等を行う市民の増加傾向が見られることから、めざす姿に向けて『おおむね順調に推移』
約束5 命と暮らし	指標設定に関する再検討が必要なことや、「自立して生活できる高齢者の割合79.2%維持」や「健康だと思える市民の割合の増加」の目標が達成できていないことを鑑みれば、『現段階で、おおむね順調に推移とまでは言いきれない』	市民の健康づくりと地域医療、障がい者福祉、母子保健福祉への関心は高まる傾向が見られ、めざす姿に向けて『おおむね順調に推移』
約束6 広域連携強化	中心市宣言の締結、ビジョン策定の評価については、「順調」と評価できる。一方で、地域全体の活性化については、交通が「達成できない」、観光と合併評価が「判断できない」という状況にある。よって、『プランどおり着実に個別施策を進めているが、現段階では十分な成果が得られていない』という評価が妥当	弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村と連携・協力する体制づくりに向けた取り組みが着実に進められているものの、『十分な成果は得られていない』
約束7 市役所の仕事力	個別の施策については、着実に取り組んでいるものの、再設定が必要な指標が多いことから、約束全体の評価については、現時点では『判断することができない』	職員の育成に対して新規事業や積極的な研修への派遣など、目標達成に向けて取り組んでいるが、『十分な成果は得られていない』

## 弘前市市民評価会議設置要綱

(設置)

**第1条** 弘前市アクションプランの評価に関する事項について、第三者評価等を実施するため、弘前市市民評価会議（以下「評価会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

**第2条** 評価会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 7つの約束の達成状況の評価に関すること。
- (2) 個別施策の達成状況の評価に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、評価及び提言に関すること。

(組織)

**第3条** 評価会議は、委員8人以内をもって組織する。

**2** 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 各種団体代表
- (3) 市民
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が適当であると認める者

**3** 前項第3号に掲げる者の選任は、公募の方法によるものとする。

(委員の任期)

**第4条** 委員の任期は、委嘱の日から翌年度の末日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

**2** 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

**第5条** 評価会議に委員長及び副委員長を置く。

**2** 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。

**3** 委員長は、評価会議の会務を総理し、評価会議を代表する。

**4** 委員長は、評価会議の議長となる。

**5** 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

**第6条** 評価会議の会議は、委員長が招集する。

- 2 評価会議の会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 評価会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(部会)

**第7条** 第2条各号に掲げる所掌事項について、必要な調査、研究等をさせるため、評価会議に部会を置くことができる。

- 2 部会は、委員長が委員のうちから指名するものをもって組織する。
- 3 各部会に部会長を置き、それぞれ委員長又は副委員長をもって充てる。
- 4 前条の規定は、部会の会議について準用する。この場合において、同条中「評価会議」とあるのは「部会」と、「委員長」とあるのは「部会長」と読み替えるものとする。

(会議の公開)

**第8条** 評価会議及び部会の会議は、原則として公開とする。

(庶務)

**第9条** 評価会議の庶務は、企画部企画課において処理する。

(雑則)

**第10条** この要綱に定めるもののほか、評価会議の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第6条の規定に関わらず、初回の評価会議の会議は、市長が招集する。

## 弘前市市民評価会議委員名簿

平成23年7月8日現在

No.	役職	氏名	所属機関等
1	委員長	辻 琢也	一橋大学大学院法学研究科教授
2	副委員長	清藤 崇	弘前商工会議所青年部会長
3	委員	サワダ ハンナ ジョイ	弘前大学国際交流センター准教授
4	委員	田村 えり子	NPO北のまほろばグリーン・ツーリズム 支援ネットワーク理事長
5	委員	林崎 孝人	相馬村農業協同組合青年部長
6	委員	清野 眞由美	NPO弘前こどもコミュニティ・ぴーぷる 代表理事
7	委員	西澤 肇	公募委員
8	委員	竹内 博之	公募委員